

# お通夜・お葬式

平成22年10月第3週放送

お釈迦さまは、今を去る約2500年前にインド北部のクシナガラで80歳のご生涯を閉じ、安らかな最期を迎えられました。

この時、すでに体調を崩されていたお釈迦さまの周りには、その身を案じて大勢の弟子が集まっておりました。お釈迦さまは弟子たちに遺言となる教えを説かれ、その結びに、

「私は、永遠の安らぎに入る時がきた。

私の最期の時を黙って見守り、世の中の無常をしっかりと見つめなさい。」

と言われると、静かに最期の時に向かわれたのです。

この夜、弟子たちは一晩中お釈迦さまを見守りました。

お釈迦さまの最後の教えは、自らの死によって世の中の無常を示された、言葉のない無言の教えだったのです。

このお釈迦さまの最後の教えにならい、私達はお通夜を営みます。

お通夜に臨み、私達は亡くなられた方の思い出と共に、この無言の教えを受けとめたいものです。

お葬式は、故人にお釈迦さまの弟子となる戒律を授ける儀式です。

お釈迦さまをこの上ない人生の先生として、お釈迦さまの教えが人生の正しき導きとなるように、自らをお釈迦さまに合わせて歩みます・・・と、故人と共に私達もお誓いをします。

戒律を授かり、お釈迦さまの弟子となった故人はその証のお名前である戒名をいただきます。お釈迦さまの教えを信じる私達は戒名を授かった方を、仏様として敬い、人生の導き手として受けとめていく事ができるのです。

仏様とられた故人は、すでに一切のこだわりを離れた方です。

私達も、こだわりを捨てなければなりません。どんなに親しい方であっても、良い思い出ばかりだったとは言えないのではないのでしょうか。お通夜・お葬式を通してこだわりを捨て去った私達は共に安らかな心になることができるのです。

そして、これからも私達を見守って下さるようにと、心を込めてご供養を行ってゆくのです。